

株式会社 幸伸



2023年度環境経営レポート

(2023年6月～2024年5月)



作成日 2024年7月26日

□ごあいさつ

・未来へ美しい地球を引き継ぎたい、そのような想いで環境問題に取り組みます。
リサイクル・リユース・リデュースをを念頭に限られた資源を無駄にせず、またエネルギーの消費を抑え地球温暖化の防止に努めます。

環境経営方針

<環境理念>

当社は、創業80余年にわたり、あらゆる機械部品・コンポーネントに携わり、現場主義を貫きお客様のお声を聞きながら創意工夫、素早い対応と技術力・情報力を活かした営業活動を展開しています。この活動を通じ、グリーン調達・CO2削減等の環境に配慮した行動を全社一丸となり、CSR(社会的責任)を果たす環境経営を実現して参ります。

<環境保全への行動指針>

1. 環境理念を実現するために、次の行動指針を定め、継続的な改善に努めます。

①電気及びガソリンの二酸化炭素排出量の削減

②廃棄物の削減の推進

③水使用量の削減

④製品及びサービスの環境配慮促進

2. 環境関連知識を素早く習得し、社内外への情報伝達を推進します。

3. 環境関連法規制や当社が約束したことを順守します。

制定日：2009年9月17日

改定日：2020年8月28日

代表取締役社長 石原 延泰

□登録事業所の概要

(1) 事業所名及び代表者名

株式会社 幸伸
代表取締役社長 石原 延泰

(2) 所在地

本社	大阪府大阪市中央区日本橋1丁目2番1号
なにわ事業所	大阪市浪速区木津川1丁目5-19
名古屋支店	愛知県大府市北山町3丁目187番
新居浜営業所	愛媛県新居浜市惣開町5番2号
西条営業所	愛媛県西条市今在家1501番地
岡山営業所	岡山県倉敷市玉島乙島8230番地
南大阪営業所	大阪府貝塚市脇浜4丁目16番1号
東京営業所	東京都西東京市谷戸町2丁目1番1号
千葉営業所	千葉市稲毛区長沼原町731番地1号
横須賀営業所	神奈川県横須賀市夏島町19番地
(株)効/鉄工所	大阪市浪速区木津川1丁目5-19

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 石原 秀起	TEL:06-6213-2351
担当者 岡本 秀和	TEL:06-6213-2351

(4) 事業内容(認証・登録の範囲)

一般機械部品(各種鉚螺類、管工機材・継手類、ゴム・パッキン類)
各種工具・機器類の販売、機械加工・受注製造

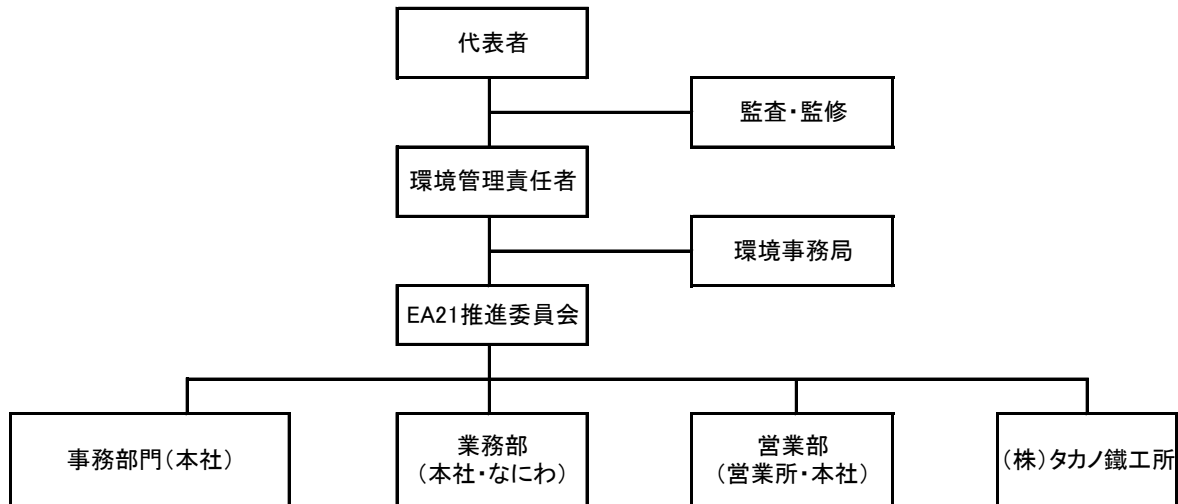
(5) 事業の規模

資本金	1000万円
従業員	97人

(6) 事業年度

6月～5月

株式会社 幸伸 環境経営システム組織図



環境経営システム 役割・責任・権限表

	役割・責任・権限
代表者(社長)	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直しを実施 ・環境経営レポートの承認
監査・監修	・代表者の補佐 ・EA全体の監修
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理、 ・環境関連法規等の取りまとめ票を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境経営活動の取組結果を代表者へ報告・ ・環境経営レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境経営活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
EA21推進委員会	・重要事項の方針の検討 ・全社教育訓練の実施の推進
部門長	・自部門における環境経営システムの実施 ・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 ・特定された項目の手順書作成及び運用管理 ・自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成 ・テスト、訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□主な環境負荷の実績(全社)

項 目	単位	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
二酸化炭素総排出量 (対象:エネルギー総量)	kg-CO ₂	89,721	87,736	90,930	90,378	86,053	90,900	94,497	92,719	96,590	98,715
廃棄物排出量(合計)	トン	15.4	13.6	15.6	21.4	18.3	11.2	10.3	11.4	10.8	12.5
一般廃棄物量排出量	トン	15.4	13.6	15.6	21.4	18.3	11.2	10.3	11.4	10.8	12.5
水使用量	m ³	331	321	336	402	519	523	495	474	520	525
太陽光発電	kWh	-	-	-	-	-	-	-	54,879	55,628	56,641
	kg-CO ₂	-	-	-	-	-	-	-	28,647	29,038	29,567
項 目	単位	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年
二酸化炭素総排出量 (対象:エネルギー総量)	kg-CO ₂	103,029	84,505	89,104	89,469	88,728	79,458				
廃棄物排出量(合計)	トン	13.3	12.1	11.5	11.0	10.7	11.1				
一般廃棄物量排出量	トン	13.3	12.1	11.5	11.0	10.7	11.1				
水使用量	m ³	574	793	880	790	841	813				
太陽光発電	kWh	55,502	53,617	53,497	52,751	53,853	51,560				
	kg-CO ₂	28,972	17,908	17,868	17,619	17,987	17,221				

※都市ガス含む。太陽光発電は売電。

電力の二酸化炭素排出係数は、2014年度までは0.378kgCO₂/kWh、2015～2018年度まで0.522kgCO₂/kWh(2013年度関西電力基礎排出係数)、2019年度からは0.334kgCO₂/kWh(2018年度関西電力調整後排出係数)を用いています。

□環境目標及びその実績(全社)

		基準年度 (基準年度)	2023年度			2024年度	2025年度
			(目標) 基準年度比	(実績値) 基準年度比	達成度 (評価)	(目標) 基準年度比	(目標) 基準年度比
電力の二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂ 基準年度比	28,820 (2021年度)	28,244 98%	28,651 99%	×	27,955 97%	27,667 96%
自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂ 基準年度比	74,552 (2008年度)	62,624 84%	50,480 68%	○	61,878 83%	61,133 82%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	103,372 (上記合計)	90,867 88%	79,131 77%	○	89,834 87%	88,800 86%
一般廃棄物の削減	(トン/年)基準年度比	15.4 (2008年度)	12.7 82%	11.1 72%	○	12.5 81%	12.3 80%
水使用量の削減	(m ³ /年)基準年度比	793 (2019年度)	761 96%	813 103%	×	753 95%	745 94%
製品及びサービスの環境配慮促進	点数	169 (2022年度)	173 102%	258 153%	○	177 105%	181 107%

(註1) 電力については、西条、岡山、南大阪、千葉、横須賀分は間借りのため、また水道についても同じく新居浜、西条、岡山、南大阪、東京、千葉、横須賀分は個別把握ができないため、全社データに含まれていません。

(註2) 電力の二酸化炭素排出係数は、2014年度までは0.378kgCO₂/kWh、2015～2018年度まで0.522kgCO₂/kWh(2013年度関西電力基礎排出係数)、2019年度からは0.334kgCO₂/kWh(2018年度関西電力調整後排出係数)を用いています。又基準年度の排出量についても比較の為、同係数を用いています。

(註3) 達成度(評価)は、○は目標値達成、△目標値は達成はできていないが前年度より削減、×前年度より増加

□環境活動の取り組み計画と評価

◎よくできた ○できた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	取組状況	評 価(結果と今後の方向)
電力による二酸化炭素排出量の削減		
・PC不要時のOFFの徹底	○	2023年度通期において、名古屋支店以外の電気使用量が基準年度と比較して増加している。今年度も基準値より増加している拠点は、特に不要時の電源をOFF徹底に取り組むこと。
・エアコン不要時の節電	○	
・クール・ウォームビズ運動	◎	
自動車燃料の削減		
・集配ルートの合理化	◎	通年としてのガソリンを使用している全拠点は基準年値より使用量は削減されている。軽油については一部増加しているが、本年度も合理的に計画性をもって運用されている。今後も買い替え時にエコカーを積極的検討していきたい。
・公共交通機関の積極活用	○	
一般廃棄物の削減		
・使用済み用紙の裏紙再利用	◎	一般廃棄物の削減については、例年同様に使用済み段ボールを中心に再利用の徹底ができています。今後も継続的に環境活動を行うこと。
・梱包用資材(ダンボール等)の再利用	◎	
・ペーパーレス化の推進	○	
水道水の削減		
・水道管からの漏水点検	○	全社で基準年よりやや増加した。拠点別ではなにわ事業所及び名古屋支店が基準年度と比べて増加している。原因は昨年より従業員の人数が増加が考えられるが、今後も工夫して環境活動を努力する事。
・手洗い水量の適正化	△	
製品及びサービスの環境配慮促進		
・EA21製品及びサービスの環境活動	○	昨年度から、評価点数を付けて2年目となるが目標値を達成している。今後も手順書等を活用して創意工夫すること。
・手順書運用		

□環境関連法規制等の順守状況

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項(施設・物質・事業活動等)	
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物(産廃マニフェスト発行、保管基準順守、廃蛍光灯等)	○
騒音規制法・振動規制法(大阪府条例)	騒音・振動特定施設等(パワープレス2.5t)	○
フロン排出抑制法	業務用空調機(適正廃棄、簡易点検の実施)	○
自動車リサイクル法	営業用乗用車、トラック(廃棄時)	○
自動車NOx・PM法	指定地域(東京都、千葉県、神奈川県、愛知県、大阪府等)での車種規制	○
道路交通法	アルコールチェック	○

環境関連法規への違反・訴訟はありません。

また、関係当局などからの違反等の指摘は過去3年間ありません。

□代表者による全体の評価と見直し・指示

・2023年度は、「電力によるCO2の削減」及び「水道水の削減」については基準年より増加しており目標は未達である。原因について、電力は例年の猛暑によるエアコン等の増設が影響している。水道水に関しては昨年より従業員が増加していることが起因と考えられるが、各拠点毎にさらなる創意工夫をお願いしたい。「自動車燃料の削減」及び「一般廃棄物の削減」については、目標値を達成している。また、「製品及びサービス環境配慮促進」については目標値を達成しているので今後も定着を期待する。尚、次年度においては環境経営方針、環境経営目標及び実施体制の変更はありません。